

# 献 辞

滋賀大学産業共同研究センターの山崎一眞教授は平成21年11月4日に満65歳の誕生日を迎えられ、平成22年3月31日をもって定年退職されることになりました。

山崎先生は、昭和43年3月に早稲田大学理工学部を卒業された後、同年4月早稲田大学大学院理工学研究科修士課程に進学し、昭和45年に同課程を修了されました。

昭和45年4月に野村総合研究所に入社され、都市経営研究室長、地域計画研究部長、新社会システム研究センター長、地域政策研究部長、研究創発センター主席研究員を歴任されました。平成14年1月に滋賀大学産業共同研究センター教授に着任され、平成15年4月以降滋賀大学地域連携センター長を兼任されてきました。

山崎先生は、野村総合研究所における上記の各部門やセンターの長として共同研究を組織し、都市計画・地域デザイン・まちづくりといった分野で実践に結びついた研究の成果を積み重ねてこられました。滋賀大学においてもその手腕を遺憾なく発揮されました。地域連携センターが取り組んできた事業の多彩さがそのことを物語っていると言えます。

まず、文部科学省の教育GP「地域活性化プランナーの学び直し教育推進プログラム」の採択と実施に尽力されました。また、滋賀大学公共経営イブニングスクールの企画、運営があります。そして、NPO法人「彦根景観フォーラム」を立ち上げるとともに理事長に就任し、地域連携センターとの共催事業として、《談話室》「それぞれの彦根物語」、足軽辻番所サロン「芹橋生活」、多賀「里の駅」《野菜市&集い》などを定期的に開催してきました。これらは、近隣自治体と連携して、政策立案能力の向上や政策課題解決の研究に取り組むものであり、また、地域住民との協同の下に「まちづくり—実践地域デザイン論」

を探求するものであります。いずれも先生の実践と結びついた研究活動の具体的な姿を示しており、その成果は業績目録に示される様々な著書・論文群に見ることができます。

教育の面では、経済学部で「都市経済論」を、また、経済学研究科で「都市経済創発論」を担当されました。都市経済の具体的な動きについて映像を使って解説し、学生が臨場感を持って理論を学ぶ方法や、フィールドに出て自ら学習する方法によって、学生の意欲を引き出し、内容理解を高めることに取り組まれました。

社会活動として、先生はこれまで実に多くの様々な官公庁の審議会等の委員長・委員を務められました。近年では、滋賀県都市計画審議会、滋賀県公共事業評価監視委員会、滋賀県産業振興推進会議、彦根市や東近江市の都市計画審議会などにおいて活躍されています。

先生は地域連携センター長として滋賀大学の地域連携・地域貢献事業の中心的役割を担われましたが、その精力的な活動によって地域において大学を代表する存在のお一人になられたとあって過言ではないでしょう。

滋賀大学経済学会は、先生のご功労に対する敬意と感謝の気持ちを表すべく、『彦根論叢』の本号を先生と親交のある方々の論文によって編集いたしました。ご退職の記念として、謹んで先生に献呈させていただきます。

先生におかれましては、今後ともますますご健勝にて過ごされますように心よりお祈り申し上げます。

平成21年11月

滋賀大学経済学会長 小西中和